

《特別出演》

本條秀太郎 (明・三味線/三味線演奏家・作曲家)

1971年に本條流を創流。端唄、民謡、民俗芸能の探訪・発掘、新作端唄も多数作曲。CD制作や海外での演奏活動も精力的に行っている。また、古典・民俗音楽を礎に、現代に生まれた伝統的三味線音楽の楽派「俚奏楽」を発表。定期公演として、俚奏楽、江戸端唄〜江戸を聞く〜、謡曲・伝えゆく詩達、現代音楽三味線「Beads」を開催。1968年よりNHK大河ドラマの邦楽指導 龍馬伝・八重の桜等。97年シアトル・ロサンゼルスにて日本舞踊アメリカ公演「俚奏楽 俊寛」を作曲・演奏。2008〜13年演劇界の鬼才サイモン・マクバーニー演出「春琴」に参加、ロンドン・パリ・ニューヨーク・東京公演(世田谷パブリックシアター)等に出演・演奏。次世代への伝統音楽継承をライフワークとし、2010年より毎年、世田谷区小・中学校への訪問演奏を行っている。著書「本條秀太郎 三味線語り」淡交社。2007年業績褒章受章

安江佐和子 (打楽器/打楽器奏者)

桐朋学園大学、同研究科修了。ミュンヘン国際音楽コンクール打楽器奨励賞受賞。小澤征爾指揮ヨーロッパ、アメリカツアーにてティンパニー奏者として出演。'02文化庁芸術家海外研修員としてベルリンへ留学。ベルリンフィル ソロティンパニー奏者。ライナー・ゼーガース氏に師事。東京フィル打楽器奏者を経て、現在ティンパニー、パーカッション、マリンバ奏者としてソロ、オーケストラ、室内楽と幅広く活動。プロデューサーとして「Prana」「il Sole」を手掛ける。オーケストラ・ジャパン首席ティンパニー・打楽器奏者。夢知室内オーケストラ客演首席ティンパニー・打楽器奏者。桐朋学園大学特任講師。

《客演》



吉澤延隆(年・十七絃箏)

2008年 第15回賢蔵記念全国華曲コンクールにおいて第1位・賞状賞を受賞。現在、東京文化会館ワークショップ・リーダーとして幅広い世代へのワークショップ活動の他、異なる分野のアーティストや専門家をつなぐコンサート・プロジェクト「NOBU-LAB.」(ノブラボ)主宰。東海大学教養学部芸術学科 非常勤講師。滋賀県立文化産業交流会館「邦楽専門実演家養成事業」講師。

木村麻耶(年・二十五絃箏)

3歳より橋本はるみ氏、桐朋学園芸術短期大学在学中に野坂恵子氏に師事。第17回賢蔵記念くめ全国華曲祭にて第1位受賞等、幼少期より優勝、入賞多数。北海道新聞社賞、銅路奨励教育長賞、平成24年度別府町文化奨励賞、第14回佐治政三賞受賞。海外からの招請も多く、審査員、レクチャー、新作初演も数多く手掛ける。

堅田喜三郎(髯物)

幼少より祖父である4代目堅田喜三郎に手ほどきを受け4代目堅田新十郎に師事、3代目堅田喜三郎師のもとで本格的に演奏活動を始め2004年5代目堅田喜三郎を襲名する。参加する若獅子会では2016年中島勝祐創作賞、2017年第9回創造する伝統賞を受賞。現在、舞踊公演、歌舞伎公演

本條秀慈郎(三味線・胡弓)

本條秀太郎に師事。桐朋学園短期大学部卒。ACCフェロー奨励によりNYへ留学。文化庁文化交流使に任命され世界30公演。ロンドンウィグモアホールにてソロリサイタル。国内外のオーケストラやアンサンブルと共演。芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。アメリカU.C DAVIS 2022アーティスト・イン・レジデンス。

本條秀英二(三味線・胡弓)

1991年、アメリカロスアンゼルスに生まれ、6歳よりピアノを始め10歳より三味線とクラリネットを始め。UCLA在学中 2009年より本條秀太郎に師事し、本條秀英二の名を許される。桐朋学園芸術短期大学芸術科音楽専攻日本音楽専修卒業。本條秀太郎に現代音楽を師事した。

川村英山(尺八)

尺八を父、川村泰山に師事。くまもと全国邦楽コンクール最優秀賞受賞。龍山流全国本曲コンクール金賞受賞。和のオーケストラ「むつのを」、The Shakuhachi 5」等に所属。東京を中心に演奏活動の他、学校公演や子供のためのリトミック教室、YouTubeへ動画投稿する等、尺八を一般に広めるべく活動中。

【出演】 J-TRAD Ensemble-MAHOROBA

国内外で活躍し古典・現代曲の研鑽を積みながら“洗練された音”への追求。

本條秀太郎の提案により永年研究している日本音楽の源流からインスパイアされ

“現在の音楽” コンテンポラリーミュージック、2020年にMAHOROBA邦楽アンサンブルを結成した。

“まほろば”はエデンであり大和言葉で住みやすい、心地よいところの意味。

監修・指導を受けている三味線演奏家本條秀太郎師によって命名。

其処にアンサンブルとして玉匣のように、徹かで多様な装飾性を深めてゆく意味合いを備えるべく、

フル編成のアンサンブルだけでなくソロやデュオ小編成での活動なども含め、固定しない突発性・偶然性を持つ活動を大事にしている。

日本の民族音楽としての“いま”の在り方を求めて現代音楽と伝統音楽の双方をレパートリーとし、時代に挑む音世界を展開する。

これまでに出演した公演は2021年彩の国さいたま芸術劇場『音動』、

神奈川県立音楽堂 エクストリームLOVE『Toshi伝説』(一柳慧芸術総監督就任20周年記念)、

東京オペラシティタケミツメモリアル『音楽のたまたま箱』など。

監修・指導：本條秀太郎

企画・制作：傳燈樂舎

オーガナイズ
アドヴァイザー：武邑清香

J-TRAD
ensemble-
MAHOROBA

<https://jtrad-mahoroba.com/>